

平成27年度 十日町市・中魚沼郡道徳部 活動報告

部長 江口 正洋

1 研究主題

豊かな人間性や社会性をはぐくむ道徳教育の推進
～多様な道徳授業の試みと教育活動全体で取り組む道徳教育の推進～

2 研究の概要

「特別の教科 道徳」への移行を目前に控え、道徳性の育成のためにどのようなカリキュラム改編や授業改善が行われるべきなのか、当郡市教育振興会から重点教科としての指定を受け、年間2回の全員研修の機会を設定して研究を進めてきた。第1回目は夏季休業期間中に専門的立場の研究者を招聘しての講義と授業改善に向けてのグループ協議を行った。第2回目は秋季に十日町市立千手小学校にご協力いただき「道徳の時間」公開授業を実施した。このように、来るべき教科化に向けて、各校のカリキュラム編成・準備の方向性を示し、教員一人一人の授業観のパラダイムシフトを促す研修を行ってきた。

3 研究の実際

(1) 『特別の教科 道徳』研修会の実施

国の動向と新たな教科についての理解を深め、各校における諸準備や研修を進める上での要点について、昨年引き続き新潟青陵大学・中野啓明教授をお迎えして、郡市内各校の道徳教育推進教師あるいは道徳主任を対象に研修を行った。

講義内容としては、道徳的実践に繋がる内面的な資質や能力としての「道徳性の育成」が重要であること。また、情報モラルや生命倫理など現代的な課題の扱いが充実することなど、検定教科書や授業の内容に関わる教示をいただくとともに、問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験活動を行いながらも、活動に終始せず、振り返り・考え・価値の自覚を深め・主体的な解決能力を育てていくことが指導方法の改善として望まれることなどをご講義いただいた。参加者からは、「子どもたちが『考え』『議論』する、多様な言語活動に裏付けられた道徳の授業への転換を図らねばならない。」という決意の声感想として多く寄せられた。



(2) 「道徳の時間」授業公開と研究協議会の開催

前記講義の後に、公開授業に向けての指導案検討会を部員全員参加で行った。少人数グループでの協議では、「本時の『主発問』を考える」とテーマ設定し、主題に迫る発問の内容・学習過程・資料や視覚化の在り方について協議した。授業者はフィードバックされた意見を元に指導案を練り直し、複数回の校内検討を経て公開授業の準備を進めた。

郡市内各校から46名の参観者を得て、低学年『わたしたちの道徳』から資料「黄色いベンチ」を用いて、「みんなのものを大切に 4-(1) 公徳心・規則の尊重」を主題として授業は開始された。資料からの気付きに基づき、「自らの姿を振り返り、」「なすべきことやあるべき姿を互いに言葉で表現し合い、」「自らの行動を変容させるための考えを出す。」子どもたちの活発な姿が見られ、主体的な学びの意欲と受容的な学級風土が印象に残る授業となった。参会者からも、UDL化された資料提示の工夫や、子どもたち同士の考えを繋げる授業者の発話などについて評価の声が聴かれた。

また、その後の協議会においては、子どもたちの道徳性と道徳的実践力とを結びつける、体験的活動や道徳的行為の評価について各グループで熱心な話し合いが行われた。

4 成果と課題

年間2回の道徳部員全員による研修により、今後の新たな道徳教育の方向性に対する不安や焦りは解消されつつあると考える。また、11月公開の授業についての指導案検討を8月に行ったことで、授業者の準備や会場校への負担が軽減されるとともに、部員の授業に対する関心や意欲が強く刺激され、授業後の協議会では活発な討論へと繋がった。

今後の課題としては、次年度は重点教科指定から外れるため、全部員を年間2回招集しての研修は行えない。そのため、各校での実践を集約して、夏季休業期間中1回実施の全員研修の場で、多くの実践事例から研修を深められるように諸準備を進め、研修体制を組織していきたい。